

■長浜港内港埋立事業基本計画（案）に係るパブリックコメント 意見内容と市の考え方（案）

パブリックコメント（３月８日～４月６日）の結果、計２９人 延べ６４件の意見が提出されました。

※内容が同様の意見はまとめさせていただいております。

No.	ページ	箇所	意見の概要	意見に対する市の考え方（案）
全体に関すること				
1	全体	全体	・長浜地区に住んでいて最近感じることは、地元の老舗業者が廃業していることである。今回の開発が長浜地区にとって最後のチャレンジになるのではと思う。	・長浜港内港埋立事業基本計画（案）（以下「基本計画（案）」とします。）は、地域の持続的な振興を目標に掲げ、人口維持と交流促進を図ることを目的としており、基本計画（案）に定める各種の取組が、長浜地域の活性化に資するものとなるよう適切に事業を推進してまいりたいと考えております。
2	全体	全体	・晴海、拓海に続く第三次開発として計画されていた事業が計画名は変わったようだが前に進んでいると聞いて喜んでいる。 道の駅や緑地、公園、国道、県道の整備など、是非とも進めてほしいことばかりであり、住民としては少しでも早く完成させてほしいと考える。しかし、どうしても切り離せないのが事業費と国や県との連携・支援ではないかと考える。 事業費については、多額になると考えるが、大洲市の財政状況で大丈夫かと心配である。 国や県と連携することで少しでも多くの補助金を活用することで、市民の負担にならないように検討してもらいたい。	・事業の実施に当たっては、補助金や交付金、起債の活用、また、公共工事により発生する残土の有効活用など、大洲市の財政負担が可能な限り少なくなるよう、適宜、国や県と調整を行うことといたします。

3	全体	全体	・事業完成後の市民の利活用見込みが、投入する経費に見合ったものとは到底思えない。長浜地区の将来人口が今回の計画で維持できるという想定も成り立たないと思う。高齢化率が大洲市の平均から見ても高い地域なので、若者だけでなく高齢者に喜ばれる施設や制度、高齢者福祉の増進に繋がるような行政こそが求められるのではないかな。	・地域を維持するためには、生産年齢人口の確保が必要です。そのため、基本計画（案）では、住環境向上、雇用創出、安全性向上、魅力向上を図り、若者の流出抑制、U I J ターンの促進、まちなかの居住促進につなげることで、町の賑わいを取り戻すことは高齢者福祉の充実にも寄与するものと考えております。 また、整備を予定している公園やスポーツ施設を子供からお年寄りまで幅広い層の方に有効利用していただくことで、地域住民の健康増進を図ることができるものと考えております。
4	全体	全体	・この計画は平成 15 年に作成されたものだと思うが、明らかに時代遅れの企画及び計画だと思う。 費用対効果についての検証や考え方が、計画内に見当たらないがどのように考えているのか。	・基本計画（案）は、平成 1 5 年に改訂された「第三次開発事業基本計画」がベースとなっていますが、現在の経済状況や人口などの社会情勢の変化を勘案した上で、長浜港内港埋立事業基本計画策定委員会（以下「地元検討会」とします。）の意見も反映し、当初の計画からは内容を見直したものとなっております。 ・費用対効果につきましては、実際に各施設の整備を検討する段階において、個別に調査を実施することとしております。

5	全体	全体	・総事業費が 92.8 億円に及び、人口約 4 万人で財政規模の小さな大洲市にとっては、負担の大きい事業であることを勘案すれば、広報活動はもったときめ細やかに、多くの市民が関心を持ち、理解できるまで分かりやすく丁寧な説明会を開くべきではないか。長浜地域だけでなく市内全域で説明会を開きその上で再度パブリックコメントを実施すべき。	・総事業費は 92.8 億円と試算しておりますが、この額全てを大洲市が負担するということではありません。 港湾・道路など、愛媛県が管理する施設の整備は県が実施する予定です。また、補助金や交付金、起債等の活用により、大洲市の実質負担額は、埋立造成で 2.3 億円、施設整備で 18.1 億円、合計で 20.4 億円となる見込みです。 なお、20.4 億円の事業費には、埋立事業の実施の有無に関わらず、老朽化により建替えが必要となる長浜支所等の公共施設の更新費用も含まれております。 ・基本計画（案）の策定にあたっては、これまでも、地元検討会の開催に関する情報や会議資料、議事録等を随時、大洲市公式ホームページで公開し、情報発信を行っております。 ・長浜地域以外での説明会につきましては、市政懇談会等での対応を検討したいと考えております。
6	全体	全体	・少子高齢化で住民が減る予測が明らかなときに事業実施に 92.8 億円という莫大な金額を投じてすべき事業とは思えない。 大阪万博で開催費用が肥大化している例を見ても分かるように、この事業も事業費の増大が懸念される。埋立て後の土地利用、維持管理計画もあいまいな事業に大切な税金を使うべきではない。事業計画の中止を強く求める。	・埋立地の土地利用につきましては、今回の基本計画（案）でお示ししておりますが、維持管理計画につきましては、実際に各施設の整備を検討する段階において、費用対効果やランニングコスト等の調査を行い、将来的な負担とならないよう検証を行ってまいりたいと考えております。

7	全体	全体	・高速道路の工事から出る土砂をなぜ本市で受入れ、92.8億円も負担しないといけないのか。過疎債も埋立てに使えないとなると市の負担になる。財源をどのように確保していくのか。 - 学校の耐震化で今後国への返済が始まり大変だと言いつつ、全体として財政運営をどうするのも明確でない。	・前述のとおり総事業費は92.8億円と試算しておりますが、この額全てを大洲市が負担するというものではありません。 ・公共事業の土砂を受け入れる際に発生する受入料は、大洲市の収入になり、埋立造成に掛かる費用を大幅に抑えることができます。 ・埋立後の施設整備の財源につきましては、大洲市の負担を最大限減らすことができるよう国の補助金や起債等を活用するとともに、施設整備を段階的に実施するなど財政負担の平準化を図ります。
8	全体	全体	・長浜港の埋立てに建設残土を受け入れ、その受入料を見込まれているようだが、是非、肱川の河道を掘削した土砂も受け入れて、1日でも早く安全安心な肱川の整備も併せてお願いしたい。	・長浜港の埋立てには公共事業により発生する建設残土等の土砂を活用することとしております。 - 引き続き、建設残土の有効活用について国や県等と協議を行いながら、今後、本市で計画されている公共事業の推進にも寄与できるよう、事業を進めてまいりたいと考えております。
9	全体	全体	・今の長浜の出生数が1桁という状態でいかに人口を早期に増やしていけるか、定着していただくかを考えたとき、地域の生活”なりわい”をしっかり支援する方が先だと思う。(漁業の燃料支援や岩場づくり、しいたけ種菌の補助等やるべきことは山のようにある。)	・地場産業の活性化を含め、人口減少対策は大洲市にとって喫緊の課題でありますので、引き続き実施してまいります。 - また、基本計画(案)は地域の持続的な振興を目標とするものであり、地場産業の活性化にも大きく寄与するものと考えております。

10	全体	全体	・当初計画案では、国道、県道の屈折、狭あいを補正する最小限の埋立事業であった。 現在の長浜町の年間出生数は、二桁に届かない状況である。 過大な公共投資ではなく、安心して、結婚し、子育てのできる環境を整えるのが、大洲市の喫緊の課題であると思う。 子供の医療費の無償化と学校給食費の無償化や高等教育費のふるさと援助金の支給など、若者が希望を持てる大洲市・地域づくりに予算を計上すべきだと思う。	・前述のとおり人口減少対策は大洲市にとって喫緊の課題でありますので、引き続き実施してまいります。また、基本計画（案）は地域の持続的な振興を目標とするものであり、人口減少の抑制にも大きく寄与するものと考えております。 なお、第三次開発事業基本計画（平成15年の改定含む。）においても国道、県道の改築を含め、埋立地において各種の土地利用や施設整備が計画されております。
11	全体	全体	・第三次計画の時より日本の状況と市民の暮らしは厳しい状況である。少子化で民族の危機的状況である。そうした中では計画を見直すべきである。	・基本計画（案）は、平成15年に改訂された「第三次開発事業基本計画」がベースとなっておりますが、現在の経済状況や人口などの社会情勢の変化を勘案した上で、地元検討会の意見を反映し、策定したものであり、当初の計画から内容を見直したものとなっております。
12	全体	全体	・近年は、少子化が進みこの地区でも子供が少なくなっていると聞いているが、今回の計画が進むことで長浜出身の若者が戻ってくるなど、他の地域からの移住などが望めるのではないかと。以前からの経緯を聞いたことがある者として、是非今回の計画を進めていただきたいと考える。ただし、事業費については、随時検証しながら無理のないようにお願いしたい。	・人口維持・交流人口の増加による長浜地域の活性化に資する計画として、適切に事業を行ってまいりたいと考えております。

13	全体	全体	・かつて長浜町漁業組合の関係者が「内港は嵐になれば船舶が避難する場所であり、できるだけ安全な内港にしようとするものだ」と語っていた。今回の計画は漁師の方も認めているのか。	・内港を利用している漁船については、平成 30 年に愛媛県、大洲市、長浜町漁業協同組合で締結した「漁船の移転に関する覚書」に基づき、現在、小型船だまりへの移転を進めています。 ・また、長浜町漁業協同組合には、地元検討会の委員として参画いただいております。
14	全体	全体	・瀬戸内海は自然の宝庫であり、それを一部の利益のために破壊したり、激変させたりすることは避けなければならない。埋立てによる環境破壊と埋立後の有用性を比較した場合、前者の比重が高すぎる。 地球温暖化による環境の激変に私たちは直面している。日本各地でも藻場の造成、魚資源の回復、美しい海岸の保全などが行われている。 長浜港は既に埋立てが進み、自然環境が大きく変わっており、自然海岸もかなり減ってしまい、海産物を提供する藻場が失われつつある。 海を無造作に埋立て、破壊する埋立事業は全国各地の環境保全運動に逆行するものであるので、事業計画の撤回を求める。	・埋立ての許可を得るためには、愛媛県に埋立免許願書を提出し、愛媛県の審査を受けることになります。 この審査項目には、今回の埋立てが環境に影響を及ぼすかどうかについても含まれておりますので、環境影響調査を実施し必要に応じて適切な対応を図ることとしております。

15	全体	全体	・SDGs、カーボンニュートラルなどが叫ばれる時代に大規模な埋立ては第一に避けることを方向付ける必要があると思う。埋立てせず、現在の地形のまま、地形を生かした柔軟で可能な計画を探ることが、未来を拓くと思う。 - 例えば釣り堀、レジャーボートやヨットハーバー、型破りな水族館として再整備するなどアイデアはいくらでも出てくる。 - 環境負荷を小さくすることに対する認識と対応姿勢を行政として考え直す必要があるのではないか。 - 港と町は繋がっていてそれが生活風景になっている。同じ風景が持続することの価値と意味を考えてみてほしい。持続性に対する無頓着さと無神経さからは脱却する必要がある。	・現在の内港は管理上の制約等により、釣り堀やヨットハーバー等での利活用が困難なことから、今後、地域の持続的な振興を目指し、各施策を推進していくためには、埋立事業は必要であると考えています。 ・瀬戸内海の環境保全については、環境影響調査により適切な対応を図るとともに、人口維持、交流人口の増加につなげていくため、長浜地域の良い部分を活かしながら、持続可能な振興に寄与するよう事業を進めてまいります。
----	----	----	---	---

16	全体	全体	・長浜の長所の一つは昔ながらの町並みであり、橋（点）よりも町（面）としての魅力である。今では寂れているが、寂れているからこそ大正昭和時代の雰囲気は未だに保たれている。現在あるものを有効に生かすことは難しいが、価値が高く、長浜の未来を切り開く鍵はここにあると思う。単に指定文化財という点の問題ではなく町全体がミュージアムになる要素が多く潜んでいる。 - 問題はモノやカネでなくヒトである。質の問題である。安易にモノとカネまかせにするのではなく、大金をかけず、環境負荷をかけず、身の丈サイズの町の生かし方をもっと賢く策定することが望まれる。そのためにも「本来の専門家」を招致して役所と業者の独りよがりではなく、「市民全体」で議論すべきだと思う。	・基本計画（案）の策定に当たり設置した地元検討会には、まちづくりの専門家である大学教授を始め、幅広い職種や世代の方々に委員として参画いただき協議を行いました。 ・施設の選定や配置については、松山や大洲市内、八幡浜方面などの広域アクセス拠点としての位置付け、また、埋立地を中心として長浜大橋（赤橋）や肱川あらし等の観光資源へのアクセス拠点としての活用を想定した計画としております。 ・観光客等が地域内を回遊することで、住民活動が活性化し、このことが町全体の魅力向上に繋がるものと考えております。
17	全体	全体	・埋立事業は大きな利権事業であることは全国的に知られていることである。もし利権第一の事業計画ならば長期的には大洲市の発展を阻害することになる。	・法令等を遵守して事業を実施いたします。
18	全体	全体	・昭和時代の無計画な開発を想起してしまう。現在の長浜が置かれた状況をもっと現実的に分析して、「本来の専門知識を有する有識者」を交えて「市民」と協議を重ねてから全体プランを策定すべきだと思う。	・基本計画（案）の策定においては、まちづくりの専門家である大学教授及び長浜地域の方々を中心として組織する地元検討会により、長浜地域の状況や社会情勢の変化を踏まえながら、人口維持・交流人口の増加による長浜地域の活性化を目指し検討を行っております。

19	全体	全体	・現在、大洲市ホームページで公表されている「大洲市港湾整備事業経営戦略」もその他の関連計画に位置付けて本計画との整合を図るべきかと思う。	・関連する計画と整合性を図りながら進めてまいります。
20	全体	全体	・雇用創出は地域を活性化させるだけでなく、日本全体の生産、支出、所得の底上げがなされ、失われた30年と呼ばれた期間からの脱出を早める大きな一歩になると思う。是非この計画を進めていただきたい。	・基本計画（案）の実施に伴う経済波及効果や、施設整備の際に行う費用対効果を検証しながら事業を進めてまいりたいと考えております。
21	全体	全体	・旧長浜町時代から漁業に従事し、長浜地域に身を置く者として、平成の大合併後、大きな事業が長浜地域になく、地域全体が衰退していく中、今回の長浜港内港埋立事業を地域活性の起爆剤として是非実施していただきたい。	・人口維持・交流人口の増加による長浜地域の活性化に資する計画として適切に事業を行ってまいりたいと考えております。
22	全体	全体	・愛媛には賢いヒトがたくさんいるのに、なぜこんな理不尽な計画を立ててしまうのか理解に苦しむ。これでは長浜を破滅に追いやってしまう。海・港と繋がる町の風景が消えてしまう。細々と経営している個人商店の多くが廃業してしまう。計画途中で挫折して殺風景な空き地と広場が残るだけになることが予想される。今の町を生かせない方々がこの計画を有効にするだけの工夫力があるとは到底考えられない。この計画からは時代錯誤と無責任さしか見えない。お願いだから再考してほしい。	・今回の基本計画（案）を策定するに当たり、長浜地域の事業者を対象に実施したアンケートでは、「販路拡大のため、道の駅を整備してほしい」や「長浜でしかない独自性を活かした街づくりと併せての埋立事業をしてほしい」などの意見をいただいております。 そのため、施設整備の段階において、地元商店街と競合するのではなく、連携しあえる関係性が構築できるよう検討してまいります。

23	全体	全体	・長浜港と同じような歴史をもつ能代港、新宮港（昔の木材搬出港）の現状を参考にしてはどうか。 ・施設として大洲の川の文化、舟運や川魚の料理を上手く紹介するようにしてはどうか。	・いただいたご意見は、実際に施設の整備内容を検討する際の参考にさせていただきます。
24	全体	全体	・旧大洲市出身で、現在は長浜地域で仕事をしている関係で、十数年長浜地域に住んでいるが、周りの人から話を聞くと、昔の長浜は華やかで賑わいがあったが、ここ最近は町内が寂れていく一方との話をよく聞く。確かに今のままでは閑散する状況が目に見えているので、内港埋立事業で新たな施設を整備していただき、観光拠点、物産飲食施設等を作っていただくと、西は八幡浜や三岐からのフェリー便からの観光客、南は大洲方面からの買い物客、東は松山、伊予市からの買い物や観光などで長浜が潤い、地域活性化に繋がるものと思われる。 長浜は日本三大あらしがあり、赤橋等の歴史物があり、近年は長浜高校の水族館がスポットを浴びる今、これを機に長浜を立て直す事業として、今回の埋立事業を是非とも進めていただき、活性化の相乗効果を図ってほしい。	・人口維持・交流人口の増加による長浜地域の活性化に資する計画として、適切に事業を行ってまいりたいと考えております。

25	全体	全体	・埋立事業は長浜町民の長年の希望であり、いよいよ本格的に進みだしたことに感慨深いものがある。 色々なことが「埋立てができてから」とされ、長浜は他地域の発展を恨めしく見てきた。 この事業は長浜のみならず、大洲市はもちろん、南予地域の振興や県民の生活、余暇に大いに寄与すると思う。 これから慎重な中にもスピード感を持って素晴らしい事業となるよう期待している。	・人口維持・交流人口の増加による長浜地域の活性化に資する計画として適切に事業を行ってまいりたいと考えております。
26	全体	全体	・急速な人口流出、高齢化によって、大洲市の人口は今や4万人を割り込み、自力での発展のために必要な資源は底を突こうとしている。現在は、肱南地区の街並みや長浜高校の水族館部などが注目を集め、県下でもトップクラスの志願倍率を得るなど、大洲市発展の機運は高まっている。 しかし、旧長浜町、肱川町、河辺村への経済効果の波及は限定的で、また、学生においては卒業後の受け皿が乏しく、せっかく集めた学生も市内の労働人口となることなく市外に流出しているのが現状である。この機会を逃すと人口減少やJRの廃線などにより、衰退の一途をたどることは想像に難くない。ただ、事業スケールを落として中途半端なものを整備したのでは事業の効果は十分に見込めないので、現在のスケジュール、スケールを維持し施設整備の実現をお願いしたい。	・人口維持・交流人口の増加による長浜地域の活性化に資する計画として、適切に事業を行ってまいりたいと考えております。

27	全体	全体	・八幡浜の「みなっと」は来場者 1,000 万人を突破して、農産物・水産物の販売や人の交流の拠点となっているほか、双海においても時代に合わせたイベントの開催や建物及びテナントの入れ替えを行い常に町の中心として廃れることなく発展し続けている。埋立地を物流の中心として活用することができれば、大洲市の林業を始め、農業・水産業・工業・観光業などにおいても更なる事業の発展の可能性が見込めると考える。この事業の実施においては、既存企業が有益に活用でき、市全体として最大限に利益を生み出せる施設整備をお願いしたい。 ・事業スケジュールについては、埋立工事完了が 10 年後、便益施設の整備がそれからとなっている。その頃には昭和世代ではなく現在の 10 代～30 代がこの埋立地の利用・運営の中心となると思う。是非とも若年者の意見を多く取り入れ、長く愛される施設の建設をお願いしたい。	・基本計画（案）の内容を検討するにあたり、大洲市や長浜地域の将来を担う地元の中学生、高校生、また愛媛大学の学生によるワークショップを通じて、意見を聴取しました。 ・今後も必要に応じて、若年者や地域の方々から意見を伺いながら人口維持・交流人口の増加による長浜地域の活性化に資するものとなるよう適切に事業を行ってまいりたいと考えております。
----	----	----	---	---

「第2章 対象地の現状」に関すること				
28	26	地元検討会	・ 広く意見を公募する市民に開かれた、検討会を開催すること。 - 過去のものを一から見直し、地球環境や持続可能性の追求などと合わせ、瀬戸内海法の趣旨に添い、困窮し停滞する地域の住民・市民の生活と将来世代の暮らしを考え、再構築を図ること。 - 検討会は偏った委員の下で、たった2回の開催であったが、検討会ではどのような意見が出たのか。	・ 基本計画（案）の策定にあたり設置した検討会は、あらゆる方の傍聴が可能となっております。 ・ 検討会の委員については、長浜地域の各種団体の代表者や市議会議員、学校のPTA役員など幅広い部門の方で構成されております。 ・ 検討会の結果は大洲市公式ホームページにて掲載しておりますので、ご参照ください。
「第4章 導入機能・施設」に関すること				
29	全体	全体	・ ドッグランについて、利用料金はいくらで設定されるのか。大洲市民に負担がかかるような施設は不必要である。 ・ キャンプ場について、莫大な経費をかけてもキャンプ場を利用する方は限定されるし、現在はキャンピングカーでの利用スタイルが主流である。 - ごみ処理や管理費を考えると利用者から数千円程度の使用料金を徴収しても毎年赤字になることが目に見えている。	・ 使用料を徴収する施設につきましては、近隣の類似施設を参考にするなど、適切な使用料の設定を行います。 - また、維持管理がしやすく、利用者にとって使いやすい施設となるよう、検討を進めてまいります。
30	全体	全体	・ 計画にある施設を設置する必要があると判断されるのであれば、年間利用者数、利用収入、年間維持管理費をどのように想定しているのか、市民負担がどの程度になるかを明確に示して、市民に理解を得てほしい。	・ 実際に施設を整備する時期がまいりましたら、各施設の機能や規模等の詳細について、改めて検討する必要があると考えておりますので、その際に、維持管理・運営費についてもより具体的に算定してまいりたいと考えております。

31	全体	全体	・長浜港の埋立てについては、大量の残土が発生し、残土受入料が見込める今が埋立事業を行う好機だと思う。 しかし、施設の整備に関しては、埋立て完成時期にもう一度その時期に合った計画に見直してもらいたい。	・埋立造成につきましては、令和13年度末の完了を予定しておりますが、その間に社会・経済情勢や求められるニーズも大きく変化していく可能性がありますので、実際に施設を整備する時期がまいりましたら、適宜、整備内容や規模等について見直す必要があると考えております。
32	全体	全体	・便益施設エリアにハブ機能を持たせ、駐車場を利用して海の景色の良い港湾緑地まで国道を歩行せず、緑地からの遊歩道を考えていただきたい。	・いただいたご意見は、実際に施設整備を検討する際に検討させていただきます。
33	全体	全体	・長浜港の埋立事業については、長浜地区の拠点としての施設ではなく、大洲市の拠点となる施設（道の駅）にしてほしい。 中途半端な施設は造ると失敗すると思う。必要な個所には十分な費用を、削れる箇所は最小限の費用でできるようメリハリのある計画をお願いしたい。	・いただいたご意見は、実際に施設の整備内容を検討する際の参考にさせていただきます。
34	全体	全体	・現在、肱南地区で観光業が成功している事例として挙げられているのは、宿泊施設を併設したからだと聞いた。現在、大洲市で成功している事例を水平展開していくべきではないかと思う。	・大洲市には、地域に応じた観光資源が充実しており、長浜地域の魅力は海であることから、海岸線のドライビングスポットとしての道の駅の整備や海水浴場に隣接する港湾緑地にキャンプ場等を整備することを基本計画（案）に取り入れています。

35	全体	全体	・今回の計画が実施されれば、長浜地域だけでなく大洲の玄関口として市内に人を呼び込むチャンスだと思う。 事業費については、確かに莫大な金額が予想されるが、国や県の補助金などをフルに活用することにより、市の負担はかなり抑えられるのではないと思う。 最近では豊予海峡ルートの整備についても進展が見られそうだと聞いているし、この機会に長年の夢であった長浜港の埋立てを実施していただくようお願いしたい。	・いただいたご意見は、実際に施設整備を検討する際の参考にさせていただきます。
36	全体	全体	・便益施設エリア、港湾緑地エリアにフィンランド式サウナと海水プール（水風呂）の設置を提案する。 近年、サウナへの需要は高まっており、老若男女問わずサウナを楽しむ時代になった。サウナは健康増進、生産性の向上の効果があると言われている。サウナ設置により、大洲市民の健康増進、地方創生の進展が期待される。 サウナの規模や種類は様々で小型のものも流通している。現実的に設置可能な大きさ、数でよいので設置する方向で検討いただきたい。	・いただいたご意見は、実際に施設の整備内容を検討する際の参考にさせていただきます。

37	全体	道の駅	・道の駅として利益を求めるのであれば、初期投資が大きくなるが温泉施設などの設備が良い。長浜はドライブ、ツーリング、サイクリングのコースとして利用されることも多く、たくさんの利用者が見込めるのではないかと。近隣に入浴施設がないため、地元の人のためにもなる。昔長浜には塩湯があったが、復活させてはどうか。 温泉施設を推す理由としては、多くの道の駅を見たところ、特に平日の利用者の多くは60代以上の高齢者が多いと感じるので、高齢者が好む施設の方が利益を産みやすい。	・埋立地での温泉施設の整備につきましては、地元検討会においても意見がございましたが、初期費用や維持費用の観点から公設・公営での施設整備は考えておりません。 民間事業者からの提案等がございましたら費用対効果を含め、埋立許可権者である愛媛県と協議を行いたいと考えております。
38	全体	道の駅	・道の駅を誘致し、長浜地域で水揚げされた鮮魚を使った道の駅食堂等を計画し、長浜特産のサワラやフグ、ハモを使った料理を提供し魅力ある長浜地域を目指してもらいたいと思う。	・いただいたご意見は、実際に施設の整備内容を検討する際の参考にさせていただきます。
39	全体	道の駅	・道の駅について、県外からでも来客してもらえるような内容の充実した施設を造っていただきたい。	・いただいたご意見は、実際に施設の整備内容を検討する際の参考にさせていただきます。

40	全体	道の駅	・道の駅として集客力を誇る施設では、多くの商品が「道の駅グッズ」とでも言うべき全国どこでも手に入るもので埋まっている。また埋立地などに大規模施設としてまとめてしまえば、元の町中の小売店は大打撃を受けて倒産する店が多く出る。町の寂れ方は更に激しくなる。 道の駅を造るのであれば、町中の空き家、空き地などを利用して分棟型の住居のような造りをしてはどうか。町全体が道の駅になる。町の中から歩行者が消える計画から町の中を人が行きかう計画に代えてほしい。	・基本計画（案）を検討する際に、実施したアンケートでは、地元の事業者の方から「立地条件としては良い場所なので、農業・漁業を生かした集客性の高い施設を実現してほしい」との意見や「事業の販路の拡大のため、道の駅などを整備してほしい」といったご意見をいただいております、施設整備の段階において、地元商店街と競合するのではなく、連携しあえる関係性が構築できるよう検討してまいります。
41	全体	道の駅	・今回の計画で目を引くのは生活環境施設用地の海の駅や水族館の構想である。 海の駅については、近隣に双海や八幡浜などの人気スポットがあり、大洲市内にも同様の施設が複数存在し、マーケットとしてやれるのかどうかはよく検討してもらいたい。	・生活環境施設の海の駅や水族館の構想が描かれていたのは、平成 15 年改訂の長浜町第三次開発事業基本計画になります。 今回の基本計画（案）では 48 ページに記載の施設配置を計画しており、道の駅に関しては、大型車や観光バスの駐車スペースを十分に確保している点で、双海や八幡浜の道の駅との差別化を図っています。 実際に施設を整備する時期がまいりましたら、ニーズや費用対効果を検証しながら、特色ある施設となるよう機能や規模等の詳細について改めて検討してまいりたいと考えております。

42	41	物販飲食施設	・農産物の販売はもちろん必要だが、他の道の駅との差別化が必要。例えば、地元のキウイフルーツを販売して、その隣でそのキウイフルーツを使用したスイーツの販売や、地元のさつまいもで焼き芋を販売するなどしてはどうか。	・物販飲食施設では、長浜地域はもちろんのこと大洲市内の特産品等を地域の方々の協力を得て販売していきたいと考えています。 - いただいたご意見は、実際に施設整備を検討する際の参考にさせていただきます。
43	42	水槽展示施設	・水族館は、長浜高校と連携して面白いものができると思うが、埋立地ありきではまずい。建築的な工夫は何とでもなる。海中の水族館、海上の水族館など。土木業者を喜ばせる計画ではなく、建築設計力を生かした計画にすれば環境負荷を下げる事が可能である。	・基本計画（案）では水族館といった大規模なものではなく、水槽展示施設を設置することとしており、水槽のレイアウト等について、長浜高校水族館部にご協力いただきながら運営していくことを検討しております。
44	42	水槽展示施設	・住民が待ち望んでいる水族館については、水槽展示施設となっているのみであり、今後検討が可能であれば水族館としての整備も考えていただきたい。	・水族館につきましては、建設費用、維持管理経費等の観点から公設・公営での設置は考えておりません。 ・今後、埋立事業が進み民間事業者から提案があれば埋立許可権者の愛媛県と協議してまいりたいと考えております。
45	42	水槽展示施設	・水槽展示施設は長浜高校生が管理するスペースを設けたら良い。人に見られることで、長浜高校生のやりがいの向上と、地域交流が見込めると思う。	・現時点では、水槽の維持管理は大洲市が行う予定ですが、水槽展示施設の水槽のレイアウトやメンテナンスなどについては、長浜高校水族館部と連携できるよう協議を進めてまいります。

46	全体	スポーツ・レクリエーションエリア	・現在の長浜には憩いの場が少ないので、子供や大人、高齢者が安心して集える場所になるのではないかと思う。スポーツ施設やドッグラン等魅力的である。 ペットが使える水飲み場やトイレ（排泄物の処理）もあると便利だと思う。 雇用も促進され、人口減少に歯止めがかかるのではないかと希望が持てる。 新たな長浜、しいては大洲の魅力発信の場としての利用が期待されると思う。	・いただいたご意見は、実際に施設の整備内容を検討する際の参考にさせていただきます。
47	4 4	多目的広場	・人工芝でのサッカー場について、工事費としては2.5億円を計上し、毎年度人工芝の維持管理のために多額の経費が必要となる。 また、風の強い長浜地域に設置しても公式な試合で利用されることはないと思う。 年間の利用回数とその使用料収入をどの程度想定して提案しているのか疑問視する。 最低でも年間3,000万円程度は収入がないと毎年赤字となり市民が負担することになる。	・人工芝については、毎年張り替える必要はなく、ゴール付近などの摩耗劣化した部分のみを張り替えることもできると伺っております。 ・なお、実際に施設を整備する時期がまいりましたら、各施設の機能や規模等の詳細について、改めて検討する必要があると考えておりますので、その際に、維持管理・運営費についてもより具体的に算定してまいりたいと考えております。

48	44	多目的運動場	・多目的運動場は悪い訳ではないが、地元の子供の人数が減っている今、本当に必要なものか考える必要がある。中学校でも他校との合同チームでないと人数が足りない状況で利用希望者がいるのか。	・多目的運動場や多目的広場は、交流人口の増加を図る施設として、市外の方の利用も想定しています。 基本計画（案）の策定に当たり、市内の高校サッカー部にヒアリングを行ったところ、人工芝のサッカー場であれば、毎日でも利用したいとの回答をいただいております。 スポーツ・レクリエーション施設エリアの工事着手予定は10年以上先になりますので、その時の状況等を勘案しながら整備内容の詳細について検討したいと考えております。
「第5章 施設配置計画」に関すること				
49	全体	全体	・埋立地の地盤は、軟弱地盤同様、災害に弱いということは今や広く知られている。そこに道の駅、公共施設、水族館など不特定多数の人が集まる施設を置くというのは防災上あり得ない考えである。 阿波池田では新市民会館の敷地に活断層が走っていたが、その指摘を受けてプロポーザルを中止したということがあった。埋立地は活断層よりもっと確実に被害を拡大させると言える。	・埋立前に土質試験等を行い、地盤の状態について確認することとしており、試験等の結果にもとづき、必要に応じて対策を実施する予定です。

50	全体	全体	・埋立てに使う土砂については、緩いものではなくよく締まるような材質の土砂や礫質土のようなものが良いと考えるがいかがか。 また、長浜は土地が低く高潮が発生した場合の防止策については検討されているだろうか。高潮対策として地盤を上げたり擁壁を設置するなどの検討を是非お願いしたい。 少しでも早く計画を実施に移していただき、早期に埋立てを完了させ、道の駅や支所等の整備を進めていただきたい。	・埋立てには建設残土の活用を予定しております。 ・また、埋立前には土質試験等を行い地盤の状態について確認することとしており、必要に応じて対策を実施する予定です。 ・津波対策は基本計画の主要断面図に記載しているように、防災面の対応として、津波想定高（T.P. + 2.90m）より高い地盤高を設定しており、高潮対策についても愛媛県と協議し、必要に応じて擁壁等による対策を講じてまいります。
51	全体	全体	・今回の計画については、旧長浜町の頃から計画されていたものを引き継いだ計画と感じている。最初の計画からは長い年月が経過したが、長浜の振興だけでなく大洲市全体にとっても有益な計画であると考えている。特に、国道378号の直角カーブが解消されたり、市役所の支所や公園、広場が整備されることについては大歓迎である。	・長浜地域の活性化に資する計画として、適切に事業を行ってまいりたいと考えております。

52	全体	全体	・ 心頭エリアに防災ヘリポートの整備が必要だと思う。長浜地域には今坊地区の喜多漁港と喜多灘ふれあい広場にヘリコプターが離発着できる施設があるが、どちらも長浜中心部から１５分程度要する。 また、大洲市地域防災計画では長浜地域のヘリポート候補地として、長浜小学校、長浜中学校、長浜高校などの各運動場が候補地となっているが、いずれも未舗装でヘリコプターの離発着を行うと運動場の粉塵が周辺住宅へ飛散し、窓ガラス破損の損害発生が懸念される。災害発生時に被災した市民の速やかな避難や緊急支援物資の受け入れが可能となるよう舗装された防災ヘリポートの整備を望む。	・ いただいたご意見は、実際に施設整備を検討する際の参考にさせていただきます。
「第８章 実現化方策」に関すること				
53	53 54	事業スキーム	・ 他の地域で成功例もあるのではないと思うが、民間活力を導入した施設整備はできないのか検討してもらいたい。	・ 施設整備については、民間活力の導入（PPP／PFI手法、指定管理者等）も視野に入れ検討を進めることとしています。
54	55	スケジュール	・ 計画にある工程は埋立完了後にそれぞれの施設が整備されるものと考えているが、少しでも早く整備を進めていただきたい。	・ 事業の早期完了を目指し、進めていきたいと考えております。